

ストックワーキンググループ、ストック専門委員会のこれまでの検討事項

現在のストックワーキンググループ及びその前身のストック専門委員会では、平成 20 年度以降次のような課題に取り組み、検討してきた。

1) 新たな資本統計の整備について

資本統計フレームワークの再構築を図り、国際標準の恒久棚卸法で資本ストック統計の整備を行なう。またこのフレームで計算される時価評価の固定資本減耗を 17 年基準改定に取り込むことを目指す。

2) 自社開発ソフトウェアの推計

93SNA で勧告されている自社開発ソフトウェアの推計方法を検討し、17 年基準改定に固定資本として計上する。

3) 育成資産の仕掛品在庫の推計方法の改善

一回だけ産出物を生産する育成資産の仕掛品在庫について、現行推計の改定を行なう。

4) 2008SNA の課題「土地改良」

2008 年 SNA では土地改良についてストックでも、自然の土地と区別し生産資産として扱うこととなっており、この措置の妥当性について検討してきた。

以上のうち、3) の育成資産の仕掛品在庫の推計方法の改善については、前回のストックワーキンググループでご議論いただき、本年 1 月 26 日の国民経済計算部会で了承いただいた。

今回は、17 年基準改定の課題となっている 1) の新たな資本統計の整備、及び 2) の自社開発ソフトウェアの推計についてご議論いただきたい。

(開催状況)

ストック専門委員会第 1 回	平成 20 年 11 月 27 日
ストック専門委員会第 2 回	平成 21 年 3 月 17 日
ストック専門委員会第 3 回	平成 21 年 9 月 15 日
ストックワーキンググループ第 1 回	平成 22 年 1 月 18 日